

## 令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立島屋小学校協議会

### 1 総括についての評価

#### 【安全安心な教育の推進について】

児童のいじめに対する意識の向上、不登校児童の在籍比率は増加がしたが、保護者・児童とつながり不登校児童の改善は果たせたので、今後継続する。

○いじめ（いのち）について考える日の設定や、その取組内容は充実しており、いじめ防止に対する学校の強い姿勢がうかがえる。また、いじめアンケートについても十分活用されており、形骸化していない点も評価できる。今後も、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めてもらいたい。

#### 【未来を切り拓く学力・体力について】

話し合い活動への取り組みの充実、算数科における基礎基本の定着の徹底、運動好きの児童の割合を増やすための取り組みを継続する。

○学力の数値を見ても、全国平均を上回る結果を継続できており、安定した授業力を疑うものはない。若手教員が増加している中だが、人材育成が充実していると感じる。今後は、アンケート結果を踏まえて、正答率に縛られず全般的な指導の質の向上を目指していってもらいたい。

#### 【学びを支える教育環境の充実について】

I C T機器のさらなる活用を目指す。社会見学を通して島屋地域を知る取り組みは深化継続する。

○様々教育活動の効率化や、児童の安心・安全を守るためのツールとして、I C T機器を活用してもらいたい。ただし、I C T機器の活用が決して「目標」とはならないよう留意する必要がある。また、島屋地域の企業等（住友電工、日本製鉄、新大阪郵便局、USJなど）については、大切な地域財産と位置づけ、今後も子どもたちの学びの場の充実を図る観点で、その関係性を維持・発展させていく必要がある。そして、わが町「島屋」の特長として、子どもたちが誇れるものにしていければ良い。

### 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

### 全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 86%以上（令和 5 年 81.5% 大阪市 79.6%）にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
  - ✧ 前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。
  - ✧ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）
    - ① 出席日数の増（学校内外で I C T 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む）
    - ② I C T の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
    - ③ 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

- いじめについての意識の問題については、子ども一人一人の心に寄り添った日ごろからの指導や、時にリフレーミング等を活用し「物事のとらえ方」から考えさせることも必要ではないか。
- 不登校児童への学校の細やかな対応を理解いただくとともに、不登校児童数が減少したことへの評価をいただいた。

## 【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 47%以上（令和 5 年度 45.5% 大阪市 41.0%）にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上（令和 5 年度 85.0% 大阪市 78.9%）にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、84%以上（令和 5 年度 80.9% 大阪市 76.5%）にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、71%以上（令和 5 年度 68.9% 大阪市 68.9%）にする。

- 経年調査の正答率の高さは評価できるが、意識調査では課題が残った。今後は、若手教員の育成を中心に、授業の質を上げるための授業改善に取り組むことが必要である。
- 全体に低い結果となったことの要因と対策について協議した。運動施設的な問題は改善されているので今後の体力の伸びに期待できることや、冬場の体力づくりの取組などを説明した。また、公園等の遊ぶ場所が極めて少ない現状を踏まえ、地域として今後何か対策が打てないかを考えていくことが提案された。

### 【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標(小・中学校)

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。
- ①学校アンケートにおいて「一人一台端末や大型提示装置を用いた学習は楽しい」(低)に対して、肯定的に回答する割合を 80 %以上にする。
- ②学校アンケートにおいて「一人一台端末や大型提示装置を用いた学習は自分のためになっている」(高)に対して、肯定的に回答する割合を 80 %以上にする。
- 学校閉庁日を夏季休業中 4 日以上、冬季休業中 3 日以上設定する。
- 一人一台端末をはじめ ICT 機器を、今後も効果的に活用することで、児童の理解を深める一助にしていく必要がある。
- 先生が元気であることは子どもにとっても重要であるから、働き方改革はもとより、働き甲斐改革(仕事のやりがい)を推進してほしい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- ・全市共通目標の 2 つにおいて「C」の達成状況となった要因等について協議した。学校として自己に厳しすぎる評価であり、「B」評価相当との意見もあったが、教職員の今後のさらなる奮起を期しての評価であるとの説明を受けた。今後の教職員の資質向上のために敢えて自己評価を厳しくする学校の姿勢は、今後さらなる発展を予感させるものである。
- ・学力経年調査の結果では、すべての学年で正答率が大阪市平均を上回り、成果が表れた。しかしながら、教科によっては意識アンケートに課題が残った。今後は、点数もある程度維持しながらも、学習に対してもっと主体的・意欲的になれるような指導が求められる。総じて、教員の資質向上を図っていくことが、すべての解決策となっていくと思われる。これからも学校の取組をよろしく願いたい。
- ・次年度も地域・保護者・学校とが連携を強化し、一体となって島屋の子どもたちの健全育成に努めていきたい。